

## 2023 年度 研究の進捗状況（筑波大学所属生）

2024 年 3 月 31 日 現在

氏名：山内宏志（2017 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表題：大学適応を意図した体育実技授業に関する研究：ライフスキル教育型授業の設計と検証

課題 1：大学適応感尺度の開発による検討

課題 2：ライフスキルが大学適応感に及ぼす影響

課題 3：心理社会的ウェルビーイングを重視した教養体育カリキュラムへの改革プロセス：国際基督教大学の事例

課題 4：ライフスキル獲得による大学適応促進を意図した体育実技授業に関する実践的研究

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

1. 山内宏志, 木内敦詞, 清水安夫:心理社会的ウェルビーイングを重視した教養体育カリキュラムへの改革プロセス: 国際基督教大学の事例, 大学体育研究, 45, 2023.

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

なし

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：田中耕作（2017 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

主題：長距離走の能力を効果的に改善するための新たな補助トレーニング法とその指導法に関する研究

●論文作成

なし

●学会発表

1. 田中耕作, 高井洋平, 吉岡利貢, 三浦孝仁: ジュニア車いす陸上選手における無酸素性および有酸素性作業能力の縦断的变化. 第 36 回トレーニング科学会大会, 2023 年 10 月 28 日～29 日.

●その他

1. 公益財団法人ウエスコ学術振興財団研究助成金, 研究課題: 鬼ごっこを用いた短時間の運動プログラムが運動能力および非認知能力に及ぼす影響, 期間: 令和 5 年度, 金額: 20 万円.

以上

氏名：霜鳥駿太（2019 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：運動部活動と徳性の強みの関係性に関する基礎的研究

研究課題 1：日本版 VIA-IS の信頼性と妥当性の確認

研究課題 2：徳性の強みと個人的属性の関係の検討

研究課題 3：運動部活動の継続性と徳性の強みの関係の検討

研究課題 4：運動部活動の具体的な体験、経験と徳性の強みの関係の検討

●論文作成

1. 霜鳥駿太, 木内敦詞, 西田順一, 松岡弘樹：運動部活動経験と徳性の強みの関係：日本版生き方の原則調査票を用いて. 応用心理学研究, 49：130-140, 2023.（査読あり）

●学会発表

なし

●その他

1. 2022 年度 北関東体育学会 若手研究助成, ポジティブ心理学における性格特性的強みに果たす体育・スポーツの役割に関する文献研究（助成期間：2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

以上

氏名：山田盛朗（2019 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表題：PCM手法を活用した学生参画型スノーボード実習モデルの開発と有用性の検証

課題1：PCM手法を活用したスノーボード授業の設計と実践を通じた課題の把握

課題2：PCM手法を活用したスノーボード授業の再設計と学修効果の検討

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

なし

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

1. 廣田音奏, 若葉京良, 山田盛朗, 銘苺 淳, 石川芽生子：大学ハンドボール選手を対象とした身体能力・形態特性に関する研究, 日本ハンドボール学会第12回学会大会, 2024年3月5日

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：森 実由樹（2019 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：体育系大学新生における入学時のスポーツ外傷・障害の実態

～高校現役引退から大学スポーツに参加するまでの過ごし方に着目して～

課題1：大学スポーツに参加するまでの過ごし方が、体育系大学新生整形外科的  
メディカルチェックの結果に与える影響を明らかにする

課題2：入学前コンディショニングが、体育系大学新生メディカルチェックに与  
える影響を明らかにする

●論文作成

1. 井上哲朗, 森実由樹, 吉嶺 真, 刈谷文彦, 谷口有子, 見波 静, 宮本瑠美, 水島諒子:  
地域における健康・体力づくりの企画と実践・成果. 武道・スポーツ研究, 第4号:  
67-76, 2023.
2. 清水伸子, 山本利春, 笠原政志, 森実由樹, 林田和孝, 矢崎利加: 大学女子柔道選手  
における競技力向上のためのコンディショニングサポート～ウエイトトレーニング  
に着目して～. 武道・スポーツ研究, 第4号: 25-32, 2023.

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：今城 遥（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表 題：高等教育における Andragogy 理論に基づく「共生体育」授業の実践

研究課題Ⅰ：成人教育であるアンドラゴジー理論に基づく共生体育についての検討をおこなう。

授業実践を通してペダゴジーとアンドラゴジーの「共生体育」の違いを明らかにする。

研究課題Ⅱ：アンドラゴジー理論に基づく「共生体育」授業を設計・実践し、その効果を検証する。

研究課題Ⅲ：「共生体育」授業を受講することによる多様性に関する意識・態度・行動に及ぼす影響について検討する。

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

1. 中川雅智，今城 遥：教員養成課程における異学年合同授業に関する実践研究  
— 模擬授業後の省察の違いに着目して —，聖カタリナ大学人間文化研究所紀要第 28 号，2023 年
2. 今城 遥：共生社会の実現を目指した障がい者スポーツ振興のための実態調査  
— 持続可能なマッチング支援に向けた人的資源に着目して —，聖カタリナ大学紀要第 36 号，2024 年

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

1. 今城 遥，長谷川悦示，齋藤拓真：学習者の立場の違いが共生体育授業のゲームルール評価に及ぼす影響，日本スポーツ教育学会，2023年9月24日
2. 今城 遥，長谷川悦示，齋藤拓真：ボール運動・球技のゲームルールに関する学習者評価の検討，日本体育科教育学会，2023年7月9日
3. 今城 遥：共生社会の実現を目指した障がい者スポーツ振興のための実態調査  
— 持続可能なマッチング支援に向けた人的資源に着目して —，日本体育スポーツ健康学会，2023年9月1日

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：北村麻衣（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：女子バスケットボール日本トップ選手のキャリア発達と大学スポーツの関与に関する研究

研究1：元WJBL選手対象の多様な進路・キャリア選択に関するインタビュー調査

研究2：現役WJBL選手のセルフマネジメントスキルやキャリアの準備性に関する心理尺度調査

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

なし

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

1. 北村麻衣：ジュニア（育成年代）競技スポーツのコーチ養成ーキャリアパスの視点からー. 第73回日本体育・スポーツ・健康学会. 2023年8月31日.

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：前原千佳（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：運動に対する情意形成と日常の身体活動促進をめざした大学体育一般体操授業の開発と効果検証

●論文作成

1. 前原千佳, 木内敦詞, 堀口文, 稲垣和希 (2024) 経験豊富な体操指導者の指導観に基づく大学体育授業の設計と実践およびそのプログラム評価. 大学体育スポーツ学研究, 21 : 145-160.

●学会発表

なし

●その他

なし

以上



氏名：蓬田高正（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

研究題目：自己調整学習の方略使用を促進する大学体育授業に関する研究

—ASE を導入した授業を題材にして—

課題1：自己調整学習の理論的背景の整理

研究1 ASEが自己調整学習の方略使用の促進に及ぼす影響に関する理論的検討

課題2：大学体育授業における学習方略使用の関連要因

研究2 大学体育授業における学習方略使用の関連要因

課題3：大学体育授業における動機づけ方略の構造と関連要因

研究3-1大学体育授業における動機づけ方略の構造

研究3-2大学体育授業における動機づけ方略使用の関連要因

課題4：自己調整学習の方略使用を促すためのASEを導入した大学体育授業の効果検証

研究4-1自己調整学習の方略使用を促すためのASEを導入した大学体育授業の実践

研究4-2ASEを導入した大学体育授業の定量的・定性的な効果検証

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

1. 蓬田高正, 坂本昭裕 (2023) 大学教養体育における動機づけ調整方略の構造と関連要因. 体育学研究, 68 : 455-470. (査読あり)
2. 蓬田高正 (2023) 自己調整学習の方略使用を促進する大学体育授業に関する研究—ASE を導入した授業を題材にして—. 筑波大学博士論文. (審査あり)

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

1. 蓬田高正 (2023) わが国における野外教育—その定義と源流をさぐる—. 身体運動文化学会第 28 回大会・シンポジウム「自然の中で育む身体」. 天理大学 (奈良県).
2. Yomogida Takamasa (2024) Introducing ASE(Action Socialization Experience) to promote self-regulated learning strategies in university physical education in the context of liberal education. 10th International Outdoor Education Research Conference. Tokyo. Oral Presentation.

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：佐藤伸之（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：大学野球におけるトラッキングデータ活用に関する研究

課題 1：大学野球選手におけるトラッキングデータ活用に関する活用状況の調査

課題 2：大学野球選手におけるトラッキングデータ活用の実践（その1）：トラッキングデータを活用した即時的なデータの可視化に関する事例

課題 3：大学野球選手におけるトラッキングデータ活用の実践（その2）：トラッキングシステムを用いた打撃練習による打球の類型化を活用したフィードバックシート作成に関する事例

課題 4：大学野球選手におけるトラッキングデータ活用の実践（その3）：コース別フィードバックシートの活用に関する事例

●論文作成

1. 佐藤伸之, 藤井雅文, 若松朋也, 前田明：野球打撃における苦手コースに対するスタンドティーを用いたトレーニングが打球速度に及ぼす影響. 九州体育スポーツ学研究, 第38巻, 第2号 : P13-20.

●学会発表

1. 佐藤伸之, 黒崎喬嗣, 藤井雅文, 前田明：大学野球選手における打撃トラッキングデータを活用した即時フィードバックに関する探索的研究. 第9回スポーツパフォーマンス研究, 2023年8月4日.

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：横山茜理（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：バスケットボール競技における学生アナリストのスキル評価に関する研究

課 題 1：学生アナリストのスキル評価のための指標作成に関する研究

課題 2-1：学生アナリストの育成過程に関する研究

課題 2-2：学生アナリストの育成に関する研究

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：齋藤拓真（2021年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表題：職業社会化理論に基づく大学の体育教員養成課程における授業改善

研究1：体育教員養成課程の学生における文化適応の特徴

●論文作成（研究費申請・獲得状況など）

なし

●学会発表

1. 今城遥，長谷川悦示，齋藤拓真：学習者の立場の違いが共生体育授業のゲームルール評価に及ぼす影響．日本スポーツ教育学会第43回大会，2023年9月24日
2. 今城遥，長谷川悦示，齋藤拓真：ボール運動・球技のゲームルールに関する学習者評価の検討．日本体育科教育学会第28回大会，2023年7月9日
3. 齋藤拓真：小学校体育授業における映像型ルーブリックの作成が教師の教授行動に及ぼす効果．日本スポーツ教育学会第43回大会，2023年9月24日
4. 曹暢，長谷川悦示，齋藤拓真：バスケットボール授業におけるデジタル教材が生徒の技術・戦術理解に及ぼす効果．日本スポーツ教育学会第43回大会，2023年9月24日
5. 曹暢，長谷川悦示，齋藤拓真：体育授業におけるバスケットボールのデジタル教材の作成と実践-スクリーンプレー学習に焦点をあてて-．日本体育科教育学会第28回大会，2023年7月9日

●その他

なし

以上

氏名：松浦 稜（2021 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表 題：大学生の日常生活に定着する運動課題の開発に関する実践的研究

研究課題1：質問票調査による大学体育授業時間外の日常身体活動促進の実態把握

研究課題2：大学生の日常生活における継続受容性の高い運動課題の検討

研究課題3：生活活動で実践できるストレッチングの即時的効果の検証：二次元気分尺度を用いて

研究課題4：座位で実践できるストレッチングの継続的効果の検証

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

1. 松浦 稜，木内敦詞，加畑 碧：大学体育授業時間外の日常身体活動促進の実態：文献調査および質問票調査から。大学体育スポーツ学研究，21：123-132，2024年3月早期公開。

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

1. 檜皮貴子，井上咲子，松浦 稜，長谷川聖修：転倒回避動作を伴う「とっさの一步」誘発装置の検討：若年者を対象として。日本体育・スポーツ健康学会第73回大会，2023年8月。
2. 松浦 稜，木内敦詞，加畑 碧：大学体育授業時間外の日常身体活動促進の実態：文献調査および質問票調査から。第12回大学体育スポーツ研究フォーラム，2024年2月。

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：渡邊 仁（2021 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

題 目：大学体育としての野外運動授業が学修者の創造性に及ぼす影響

課題 1：創造性の概念を整理し、野外運動において促進可能な創造性を理論的に明らかにする

課題 2：創造性の促進を包含した「野外運動」授業の実践と、その効果を定量的に明らかにする

課題 3：創造性に影響を与える要因に関して、学修者視座の「授業構造や機能」から定性的に明らかにする

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

- 1) 渡邊 仁, 坂本昭裕：大学体育としての野外運動による Geneplore Model に基づく創造性の創発機序に関する理論的検討. 大学体育スポーツ学研究, 21, 2024 年 3 月. Pp13-27.
- 2) 折居巧朗, 渡邊 仁, 高橋達己：筑波大生のキャンパス周辺におけるサイクリング実態と地域愛着の関連. キャンプ研究, 27, 2024 年 3 月. Pp39-48.
- 3) 渡邊 仁, 高橋達己：(速報版) 2023 年度「東北の高校生の富士登山」に関する調査研究-状態自尊感情・ソーシャルサポート・自然に対する態度の変化-. 一般社団法人田部井淳子基金 東北の高校生の富士登山 2023, 2023 年 10 月. p40

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

- 1) 渡邊 仁, 坂本昭裕：大学体育としての野外運動が促進する創造性の範疇に関する理論的検討. 日本野外教育学会第 26 回大会, 2023 年 7 月.
- 2) 折居巧朗, 渡邊 仁, 高橋達己：大学生のサイクリングの利用スタイルと地域愛着の関連-筑波大生のキャンパス周辺地域への愛着を事例として-. 日本野外教育学会第 26 回大会, 2023 年 7 月.
- 3) 高橋達己, 渡邊 仁：野外教育を専門とする学生の学習動機と認識変容プロセス. 日本野外教育学会第 26 回大会, 2023 年 7 月.
- 4) 川島才路, 渡邊 仁, 高橋達己：組織キャンプにおける指導経験が学生スタッフのライフスキルに及ぼす影響. 日本野外教育学会第 26 回大会, 2023 年 7 月.
- 5) Hitoshi Watanabe, Shinya Tabei, Tatsuki Takahashi：Effects of Climbing Mt. Fuji as a Group Mountaineering Program on Self-Esteem of Japanese High School Students. 10th International Outdoor Education Research Conference, 2024 年 3 月.
- 6) Akihiro Sakamoto, Azusa Yoshimatsu, Hitoshi Watanabe: Influence of camp therapy on friendship formation: A case study of an adolescent with autism spectrum disorder. 10th International Outdoor Education Research Conference, 2024 年 3 月.
- 7) Tatsuki Takahashi, Hitoshi Watanabe：Students Specializing in Outdoor Education in Japan: Quantitative Insights into Learning Motivations and Types. 10th International Outdoor Education Research Conference, 2024 年 3 月.
- 8) Tatsuki Takahashi, Hitoshi Watanabe：Students Specializing in Outdoor Education in Japan: Qualitative Exploration of Cognition and Motivation Transformation. 10th International Outdoor Education Research Conference, 2024 年 3 月.
- 9) Kumi Moriyama, Kosei kanatani, Takuro Orii, Hitoshi Watanabe, Akihiro Sakamoto：Practice of

family day camp 'Magomokomo Camp'. 10th International Outdoor Education Research Conference, 2024年3月.

- 10) 渡邊 仁：森林環境における野外運動授業が大学生の創造性に及ぼす影響. 第135回日本森林学会大会, 2024年3月.

●その他（研究費申請・獲得状況など）

- 1) 渡邊 仁：「ウィルダネス」環境下における野外教育プログラムが体験者の自我再構築に及ぼす影響. 科研費基盤研究（C）（課題番号：20K11459、研究期間：2020～2023年度）

以上

氏名：田川浩子（2021 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学陸上競技者における技能改善に向けた運動の理解・把握の仕方に関する確認  
観点の提案：技能改善に難渋する状況としない状況の事例分析を手がかりにして

課題1：競技者が運動意識を理解・把握するための記述・分析法の検討

課題2：技能改善に難渋する大学砲丸投競技者の運動の理解・把握の仕方の事例的分析

課題3：技能改善に向けた競技者の運動の理解・把握の仕方の確認観点の検討

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

なし

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

なし

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上



氏名：西園聡史（2021 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学サッカー選手の競技力向上に関する研究－守備戦術に着目して－

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：阿部隆行（2022 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表題：体育教師教育における経営学習論に基づくコミュニティシップ育成プログラムの開発と検証

研究課題Ⅰ：体育教師教育におけるコミュニティシップ育成の検討と尺度の開発

研究課題Ⅱ：経営学習型コミュニティシップ育成プログラムの開発と検証

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

なし

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

1. 三尾雅人, 三林洋介, 阿部隆行, 阿久津正大：学校教育におけるシット-スタンドデスクの導入効果－グループワークを行う授業の場合－. 日本人間工学会関東支部第 53 回大会, 2023 年 12 月 3 日.

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：大友あかね（2022 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

題 目：野外運動の授業における身体活動を通じた関わりが大学生の自他理解に及ぼす影響－課題解決型アクティビティを題材に－

課題1 他者との身体的な関わり方の理論に基づく授業実践の整理

課題2 身体的な他者との関わり方の構造の検討

課題3 授業実践の効果検証

●論文作成

なし

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

1. 大友あかね, 坂本昭裕: 冒険キャンプが参加児童生徒の個人志向性・社会志向性に与える影響－マウンテンバイクと歩きのプログラム特性に着目して－. 日本野外教育学会第 26 回大会, 北海道, 2023 年 7 月 1 日.
2. 永山遼真, 坂本昭裕. 大友あかね: オリエンテーリング競技を始める動機に関する研究. 日本野外教育学会第 26 回大会, 北海道, 2023 年 7 月 2 日.
3. 藤川 萌, 坂本昭裕. 大友あかね: 学校教員の自然体験活動に対する認識－資質能力と教育的効果に着目して－. 日本野外教育学会第 26 回大会, 北海道, 2023 年 7 月 2 日.
4. Kanatani K, Otomo A, Moriyama K, Sakamoto A: Pre-start Mood State and Psychological Competitive Abilities in Alpine skiing. 10th International Outdoor Education Research Conference, Tokyo, Mar. 5, 2024.
5. Sato F, Sakamoto A, Otomo A: A Process of Developing Japanese University Students' Self-authorship through Physical Education Class Using Outdoor Program. 10th International Outdoor Education Research Conference, Tokyo, Mar. 5, 2024.
6. Kogo Y, Nakajima Y, Otomo A, Kogo K: Study on instruction of snow sports for hearing-impaired students. 10th International Outdoor Education Research Conference, Tokyo, Mar. 7, 2024.

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：堀口 文（2022 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表 題：大学体育における体づくり運動の学習プログラムの開発

－身体活動における自己管理能力の向上に着目して－

研究Ⅰ：体づくり運動および一般体操に関する文献調査・実態調査

研究Ⅱ：身体活動における自己管理能力の向上を目指した学習プログラムの開発

研究Ⅲ：学習プログラムの実施とその効果検証

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

1. 狩野莉奈, 本谷 聡, 堀口 文：一般体操における熟練指導者の指導理念に関する質的研究. 大学体育研究, 46：17-24, 2024.
2. 前原千佳, 木内敦詞, 堀口 文, 稲垣和希：経験豊富な体操指導者の指導観に基づく大学体育授業の設計と実践およびそのプログラム評価. 大学体育スポーツ学研究, 2024

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

1. 狩野莉奈, 本谷 聡, 堀口 文：世界体操祭2023における活動報告-筑波大学体操部“Creative Gymnastics”. 日本体操学会第23回大会, 2023年9月9日.

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：本谷 聡 (2022 年度入学)

●博士論文の研究計画の全体像 (研究全体の表題と各課題名など)

表 題 大学生の姿勢改善をねらいとした体操の開発と効果検証  
：ドイツ体操のHaltungsschulungに着目して

課題 1 ドイツ体操学校のSport und Gymnastik Schule Kiedaischにおける  
Haltungsschulungの運動課題に関する記述的研究

課題 2 Haltungsschulungの課題特性を生かした姿勢体操の開発  
：デルファイ法による内容妥当性の検討

課題 3 大学生の姿勢改善をねらいとして開発した姿勢体操の効果検証

●論文作成 (著者、題目、投稿日など)

1. 本谷 聡, 木内敦詞, 永田真一, 狩野莉奈: ドイツ体操学校のSport und Gymnastik Schule KiedaischにおけるHaltungsschulungの運動課題に関する記述的研究. 体操研究, 17: 30-43, 2023年9月. (査読有)
2. 狩野莉奈, 本谷 聡, 堀口 文: 一般体操における熟練指導者の理念に関する質的研究. 大学体育研究, 46: 17-24, 2024年3月.

●学会発表 (発表者、題目、発表大会、大会日)

1. 狩野莉奈, 本谷 聡, 堀口 文: 世界体操祭 2023 における活動報告: 筑波大学体操部 “Creative Gymnastics”. 日本体操学会第 23 回大会号, 21, 埼玉, 2023 年 9 月.

●その他 (研究費申請・獲得状況など)

1. 本谷 聡: 高等学校の体づくり運動における生徒の主体的・対話的活動を促す運動プログラム開発. 科研費基盤研究 (C) (課題番号: 22K11628、研究期間: 2022~2025 年度)

以上

氏名：大澤啓亮（2022 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：テニスのサービス動作における観察的評価基準の作成

●論文作成

1. 高橋仁大, 中村和樹, 岡村修平, 大澤啓亮, 柏木涼吾, 村上俊祐：テニスの女子ダブルスにおける地方学生選手の課題を探るためのゲームパフォーマンス分析. スポーツパフォーマンス研究, 16 : 1-9, 2024.
2. 柏木涼吾, 村上俊祐, 岡村修平, 大澤啓亮, 中村和樹, 高橋仁大：テニスのリターンにおけるスピード及び回転数：ATPチャレンジャートーナメントに出場したプロテニス選手を対象として. スポーツパフォーマンス研究, 15 : 366-376, 2023 .
3. 大澤啓亮, 鈴木拓郎, 金高宏文：鹿屋体育大学の第 3 期中期目標・中期計画期間における大学教育に関する卒業時満足度の変化: 2017 年度と 2021 年度調査における「大変満足している」の割合に着目して. 鹿屋体育大学学術研究紀要, 61 : 45-55, 2023.

●学会発表

1. Investigating the reliability and validity of a rating scale for tennis service movements based on subjective evaluation. ARIHHP Human High Performance Forum2024, 2024年2月
2. 大澤啓亮, 中村和樹, 田代翔, 村上俊祐, 高橋仁大：機械学習によるサービスパフォーマンス定量化の試み－女子プロテニス選手の 1st サービスの着弾位置に着目して－. 日本体育測定評価学会第 23 回大会, 2024 年 2 月<優秀発表>
3. 村上俊祐, 田代翔, 中村和樹, 大澤啓亮, 岡村修平, 高橋仁大：テニス競技のゲームパフォーマンスを構造化する試み. 第 35 回テニス学会, 2023 年 12 月.
4. 大澤啓亮, 村上俊祐, 高橋仁大：男子プロテニス選手におけるサービスパフォーマンスの指標の作成－1st サービスにおける着弾点に着目して－. 第 35 回テニス学会, 2023 年 12 月.
5. 大澤啓亮, 村上俊祐, 岡村修平, 柏木涼吾, 中村和樹, 高橋仁大：テニスのサービス動作における観察的評価尺度の信頼性と客観性. 第 9 回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 2023 年 8 月.
6. 中村和樹, 大澤啓亮, 柏木涼吾, 村上俊祐, 高橋仁大：テニスのリターンにおけるスピード及び回転数とポイント取得率の関係. 第 9 回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 2023 年 8 月.
7. 鈴木智晴, 沼田薫樹, 大澤啓亮, 高橋仁大：アーチェリーにおける男子国体候補選手と男子高校選手の動作比較. 第 9 回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 2023 年 8 月.

●その他

1. ヒューマン・ハイパフォーマンス先端研究センター公募型「共同利用・共同研究」公募事業
2. 重点プロジェクト：グローバル化人材育成プロジェクト（国際学会発表支援）

以上

氏名：岡村修平（2022年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：テニスのネットプレーにおけるポジショニングと打球コースに着目した指導法に関する研究

●論文作成

1. 高橋仁大, 柏木涼吾, 岡村修平, 大澤啓亮, 村上俊祐：大学女子テニス選手を対象としたサービスのパフォーマンス向上の取り組み事例. スポーツパフォーマンス研究, 14 : 267-276, 2022. (査読あり)
2. 柏木涼吾, 村上俊祐, 岡村修平, 沼田薫樹, 高橋仁大：テニスのゲームにおいてプロテニス選手がサービスのスピード及び回転数を変化させる要因. テニスの科学, 31 : 13-14, 2023. (査読あり)
3. Hiroo Takahashi, Shuhei Okamura and Shunsuke Murakami: Performance analysis in tennis since 2000: A systematic review focused on the methods of data collection. International Journal of Racket Sports Science, 4(2) : 40-55, 2023. (査読あり)
4. 柏木涼吾, 村上俊祐, 岡村修平, 大澤啓亮, 中村和樹, 高橋仁大：テニスのリターンにおけるスピード及び回転数：ATP チャレンジャートーナメントに出場したプロテニス選手を対象として. スポーツパフォーマンス研究, 15 : 366-376, 2023. (査読あり)
5. 岡村修平：続・私の考えるコーチング論：新米指導者としての立場から. コーチング学研究, 37(supplement): 107-110.
6. 高橋仁大, 中村和樹, 岡村修平, 大澤啓亮, 柏木涼吾, 村上俊祐：テニスの女子ダブルスにおける地方学生選手の課題を探るためのゲームパフォーマンス分析. スポーツパフォーマンス研究, 16 : 1-9, 2024. (査読あり)

●学会発表

1. 柏木涼吾, 村上俊祐, 沼田薫樹, 岡村修平, 高橋仁大：テニスにおけるゲームパフォーマンス分析を活用したコーチングの実践—競技力の低い高校生テニス選手を対象として—. 第8回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 2022年7月27日.
2. Shuhei Okamura, Koki Numata and Ryogo Kashiwagi: The Relationship between Technique and Score in Tennis Doubles -A Study of Male and Female Collegiate Tennis Players. 13<sup>th</sup> World Congress of Performance Analysis of Sport 2022 & 13<sup>th</sup> International Symposium on Computer Science in Sport 2022 (ビデオ発表), 2022年9月10日～13日.
3. 村上俊祐, 大澤啓亮, 岡村修平, 北村哲, 高橋仁大：模擬ゲーム中の打球データに基づく学生選手の課題の設定. 第34回テニス学会, 2022年10月22日～23日.
4. 高橋仁大, 岡村修平, 大澤啓亮, 村上俊祐：テニス・女子ダブルスのゲームパフォーマンス分析. 第34回テニス学会, 2022年10月22日～23日.
5. 高橋仁大, 岡村修平, 大澤啓亮, 村上俊祐：テニスの女子ダブルスにおけるゲーム様相に関する研究—最終ショットに着目して—. 日本コーチング学会第34回学会大会, 2023年2月28日～3月1日.



6. 村上俊祐, 田代翔, 中村和樹, 大澤啓亮, 岡村修平, 高橋仁大: テニス競技のゲームパフォーマンスを構造化する試み. 第35回テニス学会, 2023年12月8~9日.
7. 岡村修平, 村上俊祐, 高橋仁大: テニス・ダブルスの重要なカウントにおける技術様相に関する研究—トーナメントのラウンドに着目して—. 日本コーチング学会第35回大会, 2024年3月2日.

●その他

なし

以上

氏名：笠原春香（2023 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

題 目：我が国の大学スポーツ振興に向けた大学内スポーツ統括部局の組織変革プロセスに関する基礎的研究

課題 1：現在の日本の大学内スポーツ統括部局はどのような組織構造になっているのか

課題 2：日本の大学内スポーツ統括部局において組織構造の変化を起こすにはどのようにすればよいのか

課題 3：日本の大学内スポーツ統括部局において組織構造の変化を促進するにはどのようにすればよいのか

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

なし

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

なし

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：加畑 碧（2023 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表 題：映像フィードバックと省察を活用した大学体育授業の効果検証

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

1. 松浦 稜，木内敦詞，加畑 碧：大学体育授業時間外の日常身体活動促進の実態：文献調査および質問票調査から．大学体育スポーツ学研究，21：123-132，2024年3月早期公開．

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

1. 松浦 稜，木内敦詞，加畑 碧：大学体育授業時間外の日常身体活動促進の実態：文献調査および質問票調査から．第12回大学体育スポーツ研究フォーラム，2024年2月．

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：鍋山隆弘（2023 年度入学）

●博士論文の研究計画全体像

表題：社会人基礎力の獲得を促す大学体育剣道授業の開発

研究課題 1 大学体育剣道授業の受講を通じた社会人基礎力獲得の特徴を検討

研究課題 2 社会人基礎力の獲得を意図した大学体育剣道授業の設計

研究課題 3 社会人基礎力の獲得を意図した大学体育剣道授業の効果検証

●論文作成

なし

●学会発表

なし

以上

氏名：中谷太希（2023 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：指導者自身の実践知の獲得

：鉄棒の終末技が未熟な大学生体操選手への修正事例を例証として

背 景：これまでの研究において、大学生体操選手を対象とした未習得の技を習得した事例や習得しているが未習熟な技を修正した事例を積み重ねてきた。そのコーチング事例を振り返ると、対象者が試行錯誤をしながら技を習得したり修正したりすると同様に、指導者である私も試行錯誤をしながら指導の実践知を獲得してきた。実践知とは「実践の場で状況を的確に認識し、適切な判断を下す能力であり、経験の積み重ねによって形成されるもの」である。経験の積み重ねによって形成される知識であるため、簡単に言語や数値、図表などで表せず、共有することが困難である。しかし、対象者の詳細（レディネス、学習位相、志向性、運動のクセなど）と指導の詳細（どこを見て、何を考えて、どのように伝えたのかなど）を反省分析によって暗黙知の次元からすくい上げ、記述することで指導者の実践知を示すことができると考えられる。

目 的：本研究においては、こうした指導者の実践知を分析する方法を整理し、自身のコーチング事例を例証とした指導者自身の実践知を獲得する様相を明らかにすることを目的とする。

●論文作成

1. 中谷太希：鉄棒の終末技における修正指導に関する事例研究：鉄棒から遠く離れていくような実施を行う大学生体操選手を対象に。スポーツパフォーマンス研究, 16：49-71, 2024.

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：廣瀬恒平（2023 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：記述的ゲームパフォーマンス分析によるラグビーの防御戦術とプレー成功要因との関連性の検討

課題1：ラグビーワールドカップにおいてベスト8以上に進出したチームを対象とした、世界トップレベルの防御戦術遂行に関するゲーム様相の解明

課題2：レベル別の比較を通じた、非トップレベルにも有用と仮定される戦術の立案

課題3：戦術導入前後のゲームパフォーマンス比較による、戦術有効性の検証

●論文作成

なし

●学会発表

1. 廣瀬恒平：15人制ラグビーにおける防御戦術の検討－世界トップレベルと国内大学レベルとの比較を通して－. 千葉県体育学会令和5年度第2回学会大会, 2023.12.2

2. 廣瀬恒平：15人制ラグビーのボール争奪局面における防御戦術の検討 - 世界トップレベルと国内大学レベルの比較を通して - . コーチング学会第35回大会, 2024.3.2-3  
【優秀発表賞受賞（ポスター：個別コーチング学）】

●その他

なし

以上